

①お名前

堀 均

②がんの部位

肺がん（扁平上皮がん・腺がん）

③その時のステージ

ステージⅢb

④がんと分かったときの気持ち

落ち込んでどん底・娘たちがまだ高校生と中学生で経済的にピンチを感じさせた。

⑤がんを告知されたときの自分の立場

印刷会社の管理職だった。

⑥家族・友人・同僚から、治療中に励まされた言葉、（傷ついた言葉= 任意）

会社の上司や同僚からは治療して元気に戻って来てくれと励まされた。

⑦医療関係者から、治療中に励まされた言葉、（傷ついた言葉= 任意）

・治療の方針を決めるときに放射線科へ行くときに看護師さんから若いから体力があって、治りますよと励まされた。

・また、転院した主治医から堀さんがぴんぴんシャンシャンと退院していく姿を思い浮かべ手術しますと励まされた。

・妻と一緒に通院していたが副院長から妻がしっかり寄り添って看病していることを褒めてくれた。

・副腎の転移した時にこの病院で肺がんから副腎に転移した人は全員生きていますよと励まされた。

⑦がん患者になって感じた世間の反応

世間の反応と言うか会社の部下から抗がん剤を打った後に会社に行く顔面が蒼白になっており、家に帰ってくれと言われたが、元気だから心配しないでと伝えたら納得してくれた。皆心配をしてくれているんだと感激した。

⑧がんと共生しながら自分とどう向き合っているか

私自身がんが体内にあるころは、自分の細胞の変異であり、自分の体の一部と思い、おいしいものを食べるとがんも元気になるのではと心配したりしたが、おいしいものを食べて力をつけていった。

⑨これからの目標

2006年にリレー・フォー・ライフと出会い、チャリティ活動で集まった寄付などで新薬が出来たり新しい治療法が見つかったりしていけば、がんがこの世の中からなくなれば良いと思っています。

⑩みなさんへのメッセージ

経験談をぜひ送って欲しい。以上